



2025年12月25日放送

日薬アワー FIP(国際薬剤師・薬学連合)について

日本薬剤師会
常務理事 豊見 敦

FIP (国際薬剤師・薬学連合)

国際薬剤師・薬学連合、いわゆる「FIP」についてお話します。

FIPは、薬局や病院等の薬学の実務、薬科学、そして薬学教育を代表する世界的な団体です。1912年に設立され、本部はオランダのハーグにあります。

160を超える国や地域の組織、学術機関、個人会員が所属し、550万人に及ぶ薬剤師、薬科学者、薬学教育者といった薬学専門職を代表するグローバルな組織です。

WHOやユネスコといった世界的な保健機関と連携し、国際保健の向上に、薬学の立場から貢献することを大切にしています。

FIPが掲げるビジョンは、「すべての人々が、安全で、効果的で、質の高い、手頃な価格の医薬品、医療技術、薬剤師サービスにアクセスできる世界」の実現であり、いわば世界的に地域医薬品提供体制を構築することを目指しています。

さて、みなさんが世界の薬剤師の活動に目を向けたときどのような形で情報を収集されるでしょうか。海外の専門誌などから情報を得られるという方もいらっしゃるでしょうか。もし、海外の動向に関心を持たれた際には、ぜひFIPのWebサイトを覗いてみてください。FIPでは多くのチャンネルを通じて世界の薬学・薬剤師に関する情報を発信しています。

我々日本の薬剤師にとっても日々の仕事を考えるヒントになる情報が数多く掲載されています。

FIPの活動の中で重要なものの一つは、薬学の実務、科学、教育の各分野における最新の知見や国際的な指針をまとめたドキュメントの発行です。その成果物は、「Report」「Statement」「Guidance」「Handbook」といった様々なカテゴリで発行され、FIPのWeb

サイト上で PDF が公表されています。

まず、世界の薬局・薬剤師の実務や労働力の動向をまとめた「世界薬局情勢報告書 2025」があります。また、「薬局ベースのワクチン接種を拡大するための政策ツールキット」や、「非感染性疾患（NCDs）における薬剤師の役割に関する声明」といった、具体的なサービス拡大に向けた提言も行われています。

年間で数十本にのぼるこれらのドキュメントには、実務の質を確保するための基準や、新たな専門領域への取り組み方を示す政策声明が多く含まれていますので、ぜひご覧ください。

FIP はまた、政策提言を目的としたグローバルキャンペーンや、オンラインでの継続的な研修の機会の提供にも力を入れています。

まず、キャンペーンとしては「Think Health, Think Pharmacy」という活動があります。これは、薬局が単なる小売業ではなく、プライマリ・ヘルスケアの提供場所であるという認識を、多くの人に広め、薬剤師の役割を強固にするための世界的なメッセージです。FIP は、薬剤師が最もアクセスしやすいプライマリ・ヘルスケアの提供者であると、このキャンペーンで提唱しています。

そして、インターネット上のデジタルイベントを年間を通して定期的で開催しており、これは地理的な制約を受けずに、最新の知見に触れられる点が大きな特徴です。

デジタルイベントでは、単なる情報の紹介ではなく、現場の薬剤師が役立てられる専門知識や技術に焦点を当てています。例えば、西太平洋地域における新しい薬局実務や、デジタルツールの活用に関するウェビナーがあります。また、病院薬局部門によるバーゼル声明の最新情報や AI が薬剤師の業務にどう生かせるのかを議論するセッションも行われています。倫理や一般的な疾患の管理といった、短時間で自己学習できるコンテンツの提供なども行っています。

こうしたオンラインコンテンツを通じて、世界の薬学の潮流をリアルタイムで把握し、ご自身の業務を見つめる際にも役に立つのではないのでしょうか。

第 83 回国際会議

FIP の中で最も大きなイベントが 1 年に一度開催される FIP 国際会議です。

この会議は、世界から集まる薬学専門職が直接交流し、議論を交わす最も重要な場です。2025 年の第 83 回国際会議は、今年の 8 月末から 9 月にかけてデンマークのコペンハーゲンで開催されました。

開会式で FIP のポール・シンクレア会長は、「世界の薬学分野はテクノロジー、ヘルスケア

アの変化、そして患者中心のユニバーサル・ヘルス・カバレッジにおける薬剤師の重要な役割に対する認識の高まりとともに急速に進化している」と述べました。会長は薬剤師に対し、今こそ、こうした機会を活かして変化を受け入れるべきだと促しました。そして FIP のこれからの計画が、薬剤師の多様なスキルを活用し、未来に向けて職業を再定義するための大胆な行動を求めていることを語りました。

コペンハーゲン大会では、いくつかの重要な国際的なコミットメントがなされました。

一つは抗菌薬耐性、AMR 対策に関するコペンハーゲン宣言です。日本薬剤師会、日本病院薬剤師会を含めて 79 の FIP 加盟組織がこれに署名しました。この宣言は、国際パートナーシップの構築、ワクチン接種と抗菌薬の合理的な使用の促進といった具体的な優先事項を示し、薬剤師が AMR という世界的な課題に対して、医療体制を支える重要な担い手であることが改めて示されました。

もう一つは人道支援の拡大です。FIP の 5 つの地域フォーラムが、危機時における必須医薬品へのアクセス確保に取り組むイニシアチブに署名しました。これは、ウクライナやガザへの医薬品提供といった人道支援活動を拡大するもので、危機対応における薬剤師の重要な役割が改めて示されたものとなります。

さらに、薬剤師がプライマリ・ヘルスケアにより深く関わっていくことが、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現、すなわち誰もが必要な医療を受けられる仕組みづくりに欠かせない、という考え方が、会議全体を通して強く感じられました。

今大会から、AI を活用したリアルタイムコンテンツ翻訳ツールが導入され、参加者は 70 以上の言語ですべてのプレゼンテーションのリアルタイム翻訳と要約にアクセスすることが可能となり、非英語話者にとっても内容を把握しやすくなったと思います。

国際会議の醍醐味は、専門的な議論だけでなく、世界中の仲間との交流です。

会議期間中には、健康増進と交流を目的としたファンラン (Fun run) が企画され、117 名の参加がありました。参加費が FIP 財団に寄付されるこの企画は、交流と社会貢献を両立させる人気のイベントです。

コペンハーゲン大会には、約 100 名の日本人参加者もおおり、異文化の中で活発な議論を交わし、国際学会ならではの雰囲気強く感じられました。

次回、第 84 回 FIP 国際会議は、カナダのモントリオールで 2026 年 8 月 30 日から 9 月 2 日にかけて開催されます。大会テーマは、「One Health, One Pharmacy – Bridging science, practice, and education – 科学、実務、教育の架け橋）」です。

モントリオール大会では、薬剤師がより良い健康アウトカムの実現、必須医薬品への公平

なアクセスの確保、強靱な保健医療体制の構築にどのように貢献できるのかが幅広く議論される予定です。

主要なテーマには、人間、動物、環境の相互関連性を扱う「統合された健康」、新しいケアモデルや科学技術による変革を推進する「目的を持ったイノベーション」、そして医療格差の是正を目指す「公平性のための連携」というサブテーマが設定されています。

さらに、次々回、2027年の第85回FIP世界会議は、マレーシアのクアラルンプールで2027年9月12日から15日に開催が予定されています。

FIPの活動や国際会議を通じて、私たちは「世界の薬剤師が何を考え、どこに向かっているのか」を知ることができると思います。国際的な動向を把握し、議論に参加することで、自身の業務が世界の健康増進という観点でどのように貢献できるか、国内の課題に対して国際的なベストプラクティスをどのように応用できるか、日々の仕事を少し違った視点から見直すきっかけになるのではないのでしょうか。

ぜひ、FIPのウェブサイトやデジタルイベント、そしてモンリオールでの国際会議にご参加いただき、その熱量を直接感じていただければ幸いです。